

一般社団法人 日本品質管理学会機関誌「品質」投稿要項

種 類	マニュアル
議 決	論文誌編集委員会
制定期日	昭和 46 年(1971 年) 4 月 日
改定期日	令和 6 年(2024 年) 1 月 29 日

1. 投稿資格

本会正会員，職域会員，名誉会員または準会員は，原稿を学会機関誌「品質」に投稿することができる。「品質」に掲載される原稿は，品質及び品質管理の発展に寄与するものとする。原稿は，他の刊行物に同一内容で発表されたもの，投稿中のものであってはならない。連名で投稿する場合，第一著者は本会正会員，職域会員，名誉会員または準会員に限る。

2. 投稿区分

投稿区分は次の通り。

(1) 報文 (Contributed Paper)

品質または品質管理に関して，理論上もしくは応用上独創的な内容を含む，完成された研究論文。

(2) 技術ノート (Technical Research Paper)

品質または品質管理に関する手法ならびにその応用について，新しく価値ある内容を含む研究論文。

(3) 調査研究論文 (Survey and Field Study Paper)

品質または品質管理に関して，実験・実施・調査等実証的方法により得られた，価値ある新しい事実・知見等を含む研究論文。

(4) 応用研究論文 (Applied Research Paper)

品質または品質管理に関する手法，考え方の適用事例について，その適用プロセス並びに結果を深く分析することにより得られた，価値ある新たな事実・知見等を含む研究論文。この場合の適用事例としては，一事業所，一工程等に対するものでもよい。

(5) 投稿論説 (Discussion Paper)

品質または品質管理に関する手法，考え方等に関して，独創的な命題を提起し論証した研究論文。この場合の命題としては，従来からある手法，考え方等に潜んでいる原理・原則等についての本質的な側面を主張するものでもよい。

(6) 研究速報論文 (Preliminary Research Paper)

品質または品質管理に関して新機軸の潜在的な可能性を宣言した，速報性のある研究論文。ただし，初回原稿受付日からさかのぼって 1 年以内に日本品質管理学会が主催する研究発表会で口頭発表した内容を拡張したものに限る。

(7) クオリティレポート (Quality Report)

品質または品質管理に関して有益な情報を含む報告。例えば，手法や考え方等を有効活用した事例，適用対象に新規性がある事例，実用性を有する管理手法の開発ストーリー，ヒット商品の開発ストーリー，海外における品質管理の実施状況等の報告である。

(8) レター (Letter)

品質誌に掲載された記事等に対する客観的な提言，批判。

(9) QC サロン (QC Salon)

会員に対する有益な提言, 提案, 紹介など会員相互の交流の場としてふさわしい内容の記事.

3. 原稿作成上の注意

(1) 言語

原稿を記述する言語は日本語, または英語とする.

(2) 書式

原稿は, JIS 規格の A4 サイズを指定し本学会所定のテンプレートを用いて作成すること.

(3) 提出物

論文の投稿に際して著者は, (5) に定める分量に収めた本文 (参考文献を含む) および図表を単一の電子ファイル (PDF ファイルまたはワード文書ファイル) に納め, Editorial Manager を通じて提出しなければならない.

図表は別に, 表と図をそれぞれ掲載順にまとめ, アップロードすること. 本文中に各図表の挿入位置を示すこと. 表または図がない原稿には, それぞれに替えて「表なし」または「図なし」とだけ記したファイルをアップロードすること.

PDF ファイルで送付する場合には, フォントをすべて埋め込んでおくこと.

研究速報論文のみ, 投稿論文原稿に加えて, 研究発表会要旨集報告集に掲載された原稿を PDF ファイルに変換して提出すること.

(4) 投稿時に登録すべき情報

原稿を提出する際に, Editorial Manager で入力を要求される下記の項目をすべて入力すること. 論文の内容を研究発表会などで公表した場合には, その会合名を項目 10 に記載すること. そして, 参考文献リストからはその発表を除くこと.

1. 投稿区分

報文 技術ノート 調査研究論文 応用研究論文 投稿論説 研究速報論文
クオリティレポート レター QC サロン

2. 標題 (和文)

3. 標題 (英文)

4. 著者

(和文), (英文), (第一著者は会員番号, それ以外は会員・非会員のいずれかを○で囲む)

5. 責任著者の所属機関および所在地

所属機関 (和文)

所属機関 (英文)

所在地 (和文) 〒

所在地 (英文) 〒

6. 責任著者の連絡先

連絡先 (和文) 〒

TEL :

E-mail :

7. 論文の主張点 : どの部分が新しいですか (新規性)

8. 論文の主張点 : どのようなことに有効となりますか (有効性)

9. 論文の主張点 : ほかに何か特徴があれば記入して下さい

10. 研究発表会等で公表した場合

その会合名 :

年月日 :

11. 分量 (全角 24 字換算の行数)

全体 (本文+図表) : 行

本文のみ : 行

図表のみ : 行

アブストラクト : 和文 字, 英文 words

12. 掲載費用を負担してオープンアクセスを希望するかどうか
希望する/希望しない
13. 別刷についての希望
別刷希望部数： 部
実費を負担して別刷に表紙をつけることを希望するかどうか：希望する/希望しない

また原稿を提出する際には、下記の論文執筆チェックリストを満たしているかを必ず確認し、入力して提出すること。

論文執筆チェックリスト（著者チェック欄）

	十分に記述	部分的に記述	記述なし
①序論部分に以下のことが記述してありますか			
・研究の必要性、意義	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・従来その分野の研究状況	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・研究の目的、扱う範囲	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・オリジナリティを主張する範囲	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
②結語部分に以下のことが記述してありますか			
・研究目標に到達するレベル	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・本論文の主張点のまとめ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
・今後の課題	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
③本論文の位置づけを明確にする上で必要な論文はすべて列挙されていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
④執筆要項に従っていますか	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(5) 分量

原稿は、下記に示す制限内に収まるように記述すること。初回原稿提出時には、下記に示す制限内に必ず収めなければならない。最終的に掲載原稿の分量が超過した場合には、超過ページに対して、1 ページあたり 15,000 円を著者に請求する。下記の行数は、本文、図表をあわせた行数である。

- ・報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文：
24 文字×850 行以内（テンプレート（刷り上り）10 ページ以内）
- ・クオリティレポート、レター：
24 文字×490 行以内（テンプレート（刷り上り）6 ページ以内）
- ・QC サロン：
24 文字×130 行以内（テンプレート（刷り上り）2 ページ以内）

なお、品質誌は B5 サイズで印刷される。A4 サイズで作成された原稿を、印刷に際して縮小コピーするため、図表の大きさには注意すること。

(6) 標題

標題は、論文の内容を明確に伝え、かつ簡潔であること。もし必要ならば副題をつけることができる。なお、論文が 2 報以上にわたって関連をもつ場合には、第 1 報・第 2 報という表現は使わず、それぞれの標題を、主眼点をもとにつける等の工夫により共通な標題を避けること。

(7) アブストラクト、キーワード

- ・和文アブストラクトは 500 字以内で作成すること。
- ・英文アブストラクトは 200 words 以内で作成すること。
- ・キーワードは 6 つ以内とすること。

(8) 参考文献

- ・次の形式で参考文献を列挙する。

雑誌の場合：

- [1] 川村大伸, 仁科健, 東出政信, 嶋津康治 (2008): “半導体ウエーハ処理工程における SPC と APC の融合”, 「品質」, **38**, [3], 99-107.
- [2] Deming, W. E. (1967): “What Happened in Japan,” *Industrial Quality Control*, **24**, [2], 89-93.

単行本の場合：

- [3] 棟近雅彦, 水流聡子監修, 加藤省吾, 村岡裕, 川口みき (2009): 「福祉サービスの質保証 — 職員の質を高めて利用者満足を獲得する —」, 社会福祉法人 全国社会福祉協議会.
- [4] Shewhart, W. A. (1931): *The Economic Control of Quality of Manufactured Product*, D. Van Nostrand Co., New York.

ウェブサイトまたはそのコンテンツの場合：

- [5] 総務省統計局: “平成 22 年国勢調査”, (<http://www.stat.go.jp/data/kokusei/2010/index.htm>). (2010-4-23 閲覧)
- [6] FEDSTATS: “MapStats (Arizona)”, (<http://www.fedstats.gov/qf/states/04000.html>). (2010-4-23 閲覧)

- ・ウェブサイトまたはそのコンテンツの場合には、閲覧月日の記述に注意すること。
- ・参考文献は通し番号をつけ、本文末尾に番号順に列挙する。本文中の引用箇所では著者名、文献番号を明示する。
- ・文献の引用においては著者名が容易に推察できないように記述すること。例えば、著者自身の文献を引用する場合、「著者[1]は」とせず、「川村ら[1]は」のように第三者として姓を記す。
- ・参考文献について、その写しの提出を著者に求めることがある。

(9) 図、表

- ・図、表及びその説明には、原則として本文と同じ言語を用いる。図・1、図・2、表・1、表・2のように、図と表それぞれに通し番号をつける。図や表の説明は、その内容が本文を参照しなくても理解できるように配慮する。
- ・図の数が6点を越えたときには、超過した図版作成にかかる実費を著者に請求することがある。超過した図についても、原稿の制限枚数に含める。
- ・表の中に図を書くときは、表も含めて図として扱う。
- ・図の中の文字は、あまり細かくなならないような字数にすること。

4. 原稿の提出先

Editorial Manager

<https://www.editorialmanager.com/quality/>

5. 原稿提出時の注意

研究速報論文を除く投稿区分に投稿された原稿は、「品質」誌投稿論文審査内規（学会規則 207）に基づいて審査が開始される。編集委員会による受付可否の検討の前に、「幹事の選出」が行われる。毎月開催される編集委員会で受付可否の検討を希望する際には、当該委員会開催日の1週間前に原稿を提出する必要がある。研究速報論文の投稿区分に投稿された原稿については、「品質」誌投稿論文審査内規に基づいて「幹事の選出」が行われ、編集委員会の開催を待たずに編集委員長と幹事による受付可否の検討が行われる。

6. 投稿の採否

- ・審査員については次の通りである。

報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説

2名以上の審査員の審査結果に基づき論文誌編集委員会が決定する。

研究速報論文

2名以上の審査員の審査結果に基づき論文誌編集委員長と担当幹事が決定する。
クオリティレポート、レター、QCサロン

論文誌編集委員会が審査・決定する。

- ・審査の結果、著者に原稿内容の訂正または削除・追加等を要求することがある。訂正等を求められた原稿は、3カ月以内に Editorial Manager に再提出しなければならない。その際、訂正または削除・追加等の要求に対する回答文、ならびに改訂箇所をまとめたものを添付すること。
- ・3カ月を越えて再提出された場合は新規の投稿とみなす。
- ・研究速報論文に投稿された原稿について、3回の審査までに「掲載可」または「意見通り改めれば掲載可」との判定にならなかった場合には、「掲載不可」とする。
- ・受付日は、Editorial Manager に投稿した日とする。
- ・編集委員会は執筆者に原稿の訂正を求めることがある。また、ページの割り付けなどのため、文章の一部短縮を求めることがある。

7. 校正

著者は原則として2回まで校正することができる。その際、印刷上の誤り以外の字句及び図版の訂正、挿入、削除は認めない。校正の結果は、事務局指定の期限までに速やかに提出すること。期限に遅れた場合は、編集者の校正をもって校了とする。

8. 著作権

「品質」に掲載された記事についての著作権は本学会に帰属する。本誌に掲載された記事を無断で複製、転載、翻訳、翻案してはならない。著者が自分の記事の全部または一部を複製、転載、翻訳、翻案することは差し支えないが、その旨を論文誌編集委員会に書面で通知するものとする。

9. 別刷

別刷を希望する著者は、最少部数を50部とし、かつ1部100円を著者負担として、10部単位で必要部数を申し込むことができる。また、希望する場合、著者は、部数によらず10,000円を追加負担することで、別刷に学会所定の表紙※を付けることができる。

※ <https://jsqc.org/wp/wp-content/uploads/2023/12/cover1-J.doc> を参照。

10. オープンアクセス

『品質』に掲載された記事について、著者が J-STAGE 上※で一般公開すること（オープンアクセス）を希望する場合には、その旨を日本品質管理学会に通知するとともに、J-STAGE 上でのオープンアクセス料として150,000円を支払わなければならない。

※ <https://www.jstage.jst.go.jp/>

付 則

1. 本要項は昭和46年(1971年)4月制定。
2. 本要項は平成5年(1993年)9月改定。
3. 本要項は平成11年(1999年)6月改定。
4. 本要項は平成13年(2001年)10月改定。
5. 本要項は平成16年(2004年)12月14日改定。
6. 本要項は平成22年(2010年)10月12日改定。
7. 本要項は平成22年(2013年)10月4日改定。
8. 本要項は平成27年(2015年)12月16日改定。
9. 本要項は平成29年(2018年)1月29日改定。
10. 本要項は令和4年(2022年)6月20日改定。
11. 本要項は令和5年(2023年)11月27日改定。

12. 本要項は令和 6 年(2024 年)1 月 29 日改定.